

### (3) 鎌倉時代～室町時代

## 芦名氏の会津支配はじまる

さわらじゅうろうよしつら  
 佐原十郎義連は三浦半島で三浦一族に生まれ、文治5年(1189)に源頼朝が奥州平泉藤原氏を滅ぼした奥州合戦の手柄により会津最初の領主となったと伝えられている。喜多方には青山城(現 上三宮町)・新宮城(慶徳町新宮)など領主の居城等が建てられた。新宮氏は喜多方西部の新宮城を本拠として勢力を蓄えたが、その後、15世紀室町時代に黒川(今の会津若松)の芦名氏は新宮氏を滅亡させ、佐原氏も姿を消し、芦名一族が会津盆地から喜多方地方を広く掌握するようになった。



伝佐原義連の墓

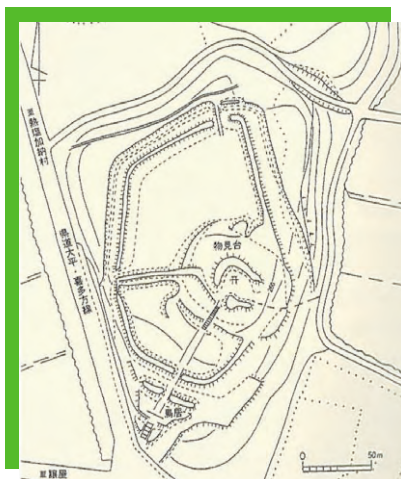
## 喜多方にあった領主等の居城



新宮城之図(明和元5月8日作図『耶麻郡誌』)



新宮城本丸跡



青山城跡(西城)略測図(山崎四郎作図)



青山城跡

(資料: 図説喜多方の歴史)